

岡山県

(県南地区)

岡山県の促成栽培ナス産地における IPM技術の導入

【1. 概要】

- ・促成栽培ナスにおいて育苗期の紫外線カットフィルム及び天敵の利用、本圃での天敵活用による、ミナミキイロアザミウマの効率的な防除を実施
- ・地区内導入割合は平成26年度時点で約96%(平成21年度比 30倍)

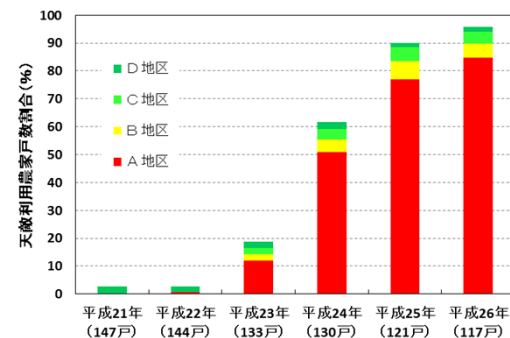


図1. 備南地区の促成ナス産地における天敵利用状況(備前広域農業普及指導センター調べ)

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・県南の促成栽培ナス産地では、難防除害虫ミナミキイロアザミウマの薬剤感受性低下により、化学合成農薬による防除が非常に困難な状況となっていた
- ・県関係機関が連携し、研究機関で得たデータを基に普及指導センター及びJAが中心となり、実証圃を核に生産者へのIPM技術の利用促進を図った(図1、2)

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・県関係機関(行政、普及(革新支援センター含)、研究)がプロジェクトチームを結成し、連携を取りながら現地への技術普及推進に努めた
- ・実証展示圃を設置し、生産者と一体になった取り組みを通じて、天敵の効果を実感してもらったことも成功の一因と考える



図2. 天敵(タバコカスミカメ、スワルスキーカブリダニ)を活用した促成栽培ナス圃場

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・秀品率が以前のレベルまで回復(約8%向上)し、所得の増加が図られた
- ・化学合成農薬の散布回数が約60%(約50回が約20回に、うち殺虫剤約75%(約40回が約10回に))低減できた。これにより薬剤散布労力の軽減(散布時間で約30%の減)と防除コストの削減(約4万円/10a)が実現できた

【問い合わせ先】
岡山県農林水産総合センター
農業研究所病虫研究室
電話：086-955-0543